

【接続期における全体計画例】

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして、5歳児後半から小学校1年1学期を一体的に示した全体計画例を作成しました。このような全体計画を、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の協働により作成することで、保育者と小学校の教師双方が、幼児期の育ちと小学校の学びがどのように接続するのかイメージできるようになり、連続性・一貫性をより一層意識した教育・保育を実現することができます。

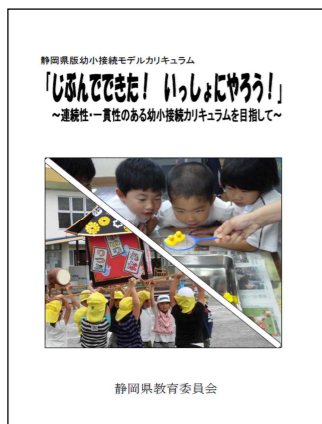
月	10月	11月	12月	1月	
ステージ	第1ステージ				
ねらい	・グループやクラスの友達の中で、自己を十分に発揮する。 ・友達と一緒に考えたり、アイデアを出したり、相談したり、葛藤したりしながら、共通の目的に向かって遊びを進める楽しさを味わう。		・大きくなったことを実感し、友達と一緒に、見聞を広げたい。 ・これまでお世話になったことに感謝の気持ちを伝える。		
知識・技能の基礎	(健) 自分の所持品の整理や始末を丁寧に行う。②⑤ (健) 必要性を感じて、協同・共有のものを片付ける。⑤②		(健) 自分たちで決めたルールを守って遊ぶ。 (健) トイレの掃除や整理を自分たちで行う。		
	4月				
	第3ステージ				
	・学校の施設の様子や一日の生活サイクル、先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かる。 ・健康や安全に気を付けて、規則正しく生活したり、仲よく活動したりする。				
	【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】 ① 健康な心と体 ② 自立心 ③ 協同性	①②④ (せ) 自分のことは自分で ・身支度、整理整頓、トイレ・流し・下駄箱の使い方、給食の配膳・片づけ、手洗い、歯磨き、職員室等への入室など、やり方が分かり、自分でやる。	①②④ (ま) 教科書をひらいてみよう ・教科書の絵を見て言葉や文を作る。詩を音読したり、暗唱したりする。 ・絵を見て数を数えたり、ブロックなどを対応させたり、数字をかいたりする。	①⑥⑧⑨⑩ (ま) 友達と一緒に学ぼう ・平仮名を1つ選んでその字から始まる言葉をべアや班で集め、書いたり書いた言葉を読んだりする。 ・身の回りにある10までの数のものを友達と一緒に探し、数える。 ・みんなで歌いながら	①②④ (せ) 学校の生活のリズムになれよう ・朝活動、朝の会、授業、給食、昼休み、清掃活、帰りの会など、学校の日課に従って生活する。 ①⑥⑧⑨⑩ (ま) 思ったことを伝えよう ・主語述語の交換

1年生1学期

【実践事例】

本モデルカリキュラムを基に行われた実践事例も掲載しました。各実践における指導のポイントも、まとめてあります。

- 〈事例1〉協同性が発揮できる遊びを充実する 「みんなで楽しく遊べる宇宙迷路を目指して」(5歳児・11月)
- 〈事例2〉身近な自然や地域社会に触れることのできる保育環境を工夫する 「みんなでつくったスケートリンク」(5歳児・11月)
- 〈事例3〉小学校入学に向けて自立心や自信を高める体験を積み重ねる 「幼稚園と小学校との継続的・計画的な交流」(5歳児・通年)
- 〈事例4〉幼児期の育ちを踏まえた指導のあり方を工夫する 「すなやつちとなかよし」(図画工作科・5月)
- 〈事例5〉生活科を中心に合科的・関連的な指導を工夫する 「がっこうだいすき」(生活科等・4月中旬～5月下旬)
- 〈事例6〉全校で協力体制をつくり取り組む 「1年生を中心に据えた学校スタートカリキュラム」(3月～4月)



「静岡県版幼小接続モデルカリキュラム」は、静岡県幼児教育センターのHPよりダウンロードできます。
 (PDFサイズ: 合冊約6MB、分冊6ファイル: 約600KB～約1.8MB)
 静岡県就学前教育情報発信サイト「わっ!」
<https://sites.google.com/a/neg.edu.pref.shizuoka.jp/youji/home/research>

静岡県幼児教育センター (電話)054-221-3287

静岡県版幼小接続モデルカリキュラム

概要版

「じぶんでできた! いっしょにやろう!」

～連続性・一貫性のある幼小接続カリキュラムを目指して～

「幼小接続モデルカリキュラム」とは?

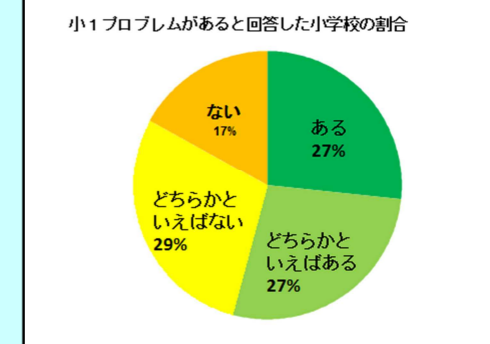
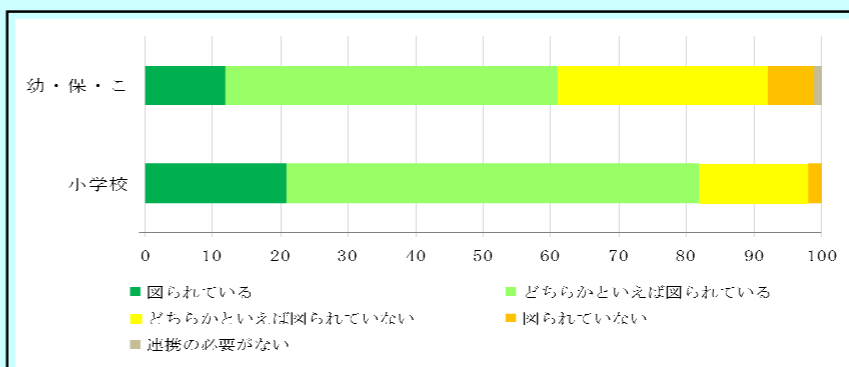
子どもたちが、幼児教育施設で生まれた力を小学校においても発揮し、小学校でさらに伸ばしていくためには、幼児教育施設は子どもの主体的な遊びを大切にしながら、小学校を見通した保育を行い、小学校は幼稚園等で生まれた子どもたちの力を上手に生かしていくことが大切です。

このことから、静岡県教育委員会では、保育者と小学校の教師が、幼児期から児童期における発達の流れを理解し、子どもの成長に即した5歳児後半から1年生1学期までを見通したカリキュラムを作成・実施していくための手引きとして、「静岡県版幼小接続モデルカリキュラム」を作成しました。

このリーフレットでは、接続期のカリキュラム作成の視点を中心に、本モデルカリキュラムの概要をまとめました。

【幼小接続の現状】

小学校においては、約8割の学校が「幼小の連携が図られている・どちらかといえば図られている」と考えているにもかかわらず、半数以上が「小1プロブレムがある・どちらかといえばある」と回答しています。



県内国公私立幼稚園・保育所・認定こども園903園、小学校506校回答。(H28調査)

【内容】

- 第1章 接続期のカリキュラムの必要性
 - 学習指導要領等の改訂内容
 - 静岡県の教育と現状
- 第2章 接続期の教育について
 - 環境を通して行う幼児期の教育
 - 確かな学力を育む小学校教育
 - 自己肯定感を高める接続期の教育
 - 切れ目のない支援体制の構築
- 第3章 接続期のカリキュラム作成の視点
 - 5歳児後半のカリキュラム作成の視点
 - 小学校1年生1学期のカリキュラム作成の視点
- 第4章 接続期のカリキュラム例
 - 接続期における全体計画例
 - 5歳児後半の指導計画例
 - ★ こんなエピソードありました
 - 小学校1年生スタートカリキュラムの例
- 第5章 幼小の円滑な接続を支えるために
 - 乳幼児期の保育
 - 小学校低学年以降の教育
 - 各園・校におけるカリキュラム・マネジメント
 - 幼小の教職員の連携の在り方

こんな活用ができます!



カリキュラム編成の参考に

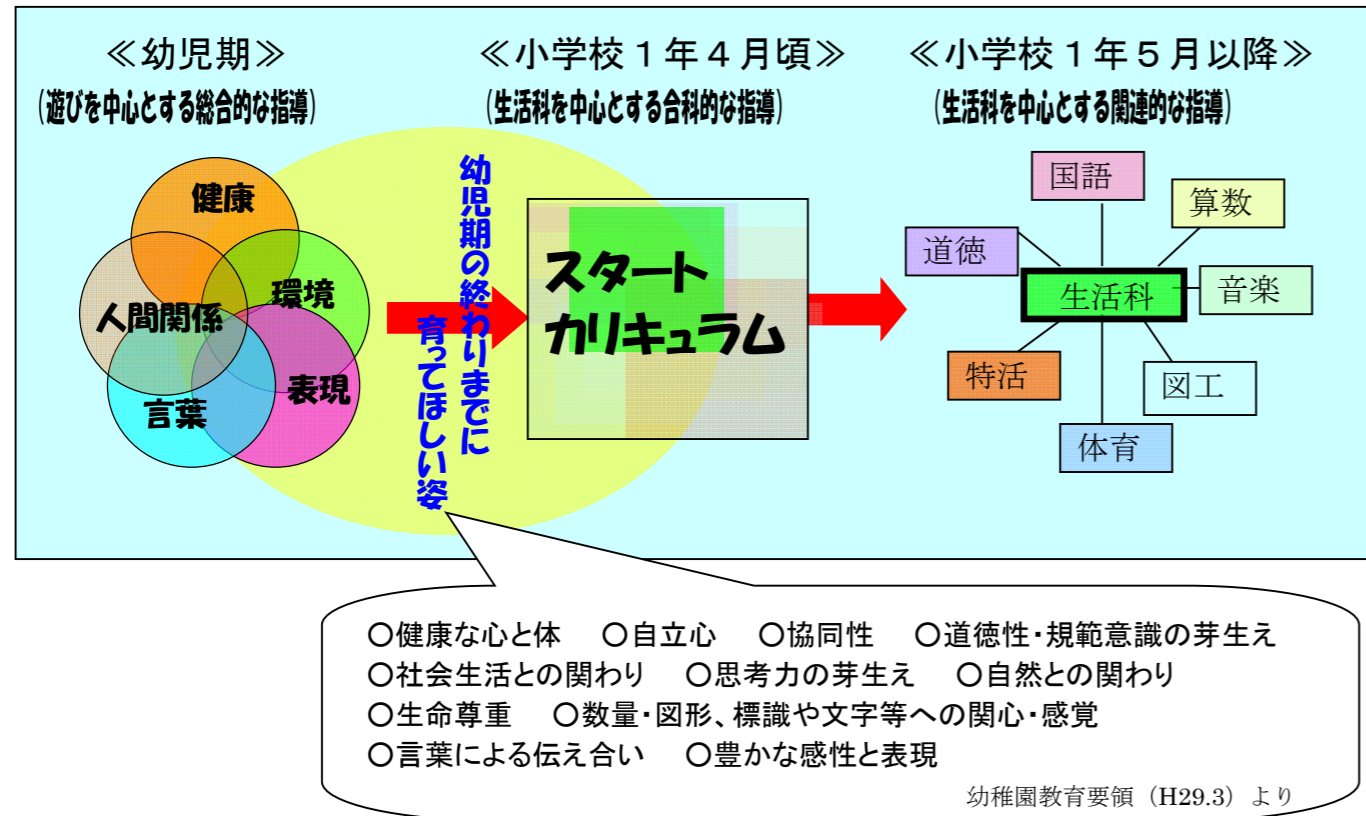
保育内容・授業内容のヒントに

幼小が、互いの教育・保育を理解するための材料として

幼小合同で行う研修のテキストとして

【接続期における教育・保育】

接続期においては、遊びを中心とする総合的な指導から、生活科を中心とする合科的な指導を経て、無理なく教科中心の学習に移行していくことが大切です。このとき、保育者と小学校の教師が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を介して子ども理解を深め、5歳児後半のカリキュラムやスタートカリキュラムを作成していくと効果的です。



【接続期のカリキュラム作成の視点】

1 5歳児後半のカリキュラム策定の視点

その時期の発達にふさわしい経験を積み重ねるようにすることが大切です。そこで、以下の4つの視点を挙げています。

- (1) 協同性が発揮できる遊びを充実する
 - ・ 子ども自らによる協同的な遊びの成立
 - ・ 行事等をきっかけにした保育環境の工夫
 - ・ 子ども同士が関わりあう場の設定
- (2) 身近な自然や地域社会に触れることのできる保育環境を工夫する
 - ・ 自然の不思議さやおもしろさを取り入れた保育環境の工夫
 - ・ 身近な地域社会とのつながりを意識する機会の設定
- (3) 小学校入学に向けて自立心や自信を高める体験を積み重ねる
 - ・ 生活上必要なことの定着
 - ・ 小学校との交流
- (4) 保育のPDCAサイクルを確立する場を設定する
 - ・ 「いつ」「どこで」「だれを」の明確な位置付け
 - ・ 複数の保育者による協議

2 小学校1年生1学期のカリキュラム策定の視点

新しい環境に対し、安心して学校生活をスタートすることができるようにするとともに、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を十分に踏まえ、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるように工夫することが大切です。そこで、以下の4つの視点を挙げています。

- (1) 幼児期の育ちを踏まえた指導の在り方を工夫する
 - ・ 幼児期の育ちの把握
 - ・ 入学当初における安心や楽しさを抱かせる指導の工夫
 - ・ 「自分で分かった、できた」と実感できる指導の工夫
 - ・ 関わりを広げ、自己発揮できる指導の工夫
- (2) 生活科を中心に合科的・関連的な指導を工夫する
 - ・ 接続期における生活科の役割
 - ・ 合科的・関連的な指導の重要性
- (3) 弾力的な時間割を設定する
 - ・ 子どもの発達や学びの特性を踏まえた時間割の設定
 - ・ 弾力的な時間割の設定期間に関する留意事項
- (4) 全校で協力体制をつくり取り組む
 - ・ 全職員による協力体制の構築
 - ・ 保護者や地域、幼稚園・保育所・認定こども園の保育者との連携

「小学校1年生スタートカリキュラムの例」では、子どもが幼児期に親しんできた生活リズムや一日の過ごし方に配慮し、以下の三つの活動を設定しました。

- 「せいかつタイム」
 - ・ 小学校での生活が分かり、一人一人が、安心感をもち、自分の力で生活したり、新しい人間関係を築いたりできるようになることをねらいとした活動
- 「なかよしタイム」
 - ・ 3つの活動の中で中心的な活動であり、生活科の内容を中心とする学習活動
- 「まなびタイム」
 - ・ 教科等の内容を中心とした活動

三つの活動は、小学校生活への適応を見据えて、最初は、「せいかつタイム」「なかよしタイム」が一日の活動の中心となるように設定し、少しずつ「まなびタイム」の時間を増やしていくようにしました。

《スタートカリキュラムにおける三つの活動の配列イメージ》

第1週	第2週	第3週	第4週
せいかつタイム			
なかよしタイム			
まなびタイム			